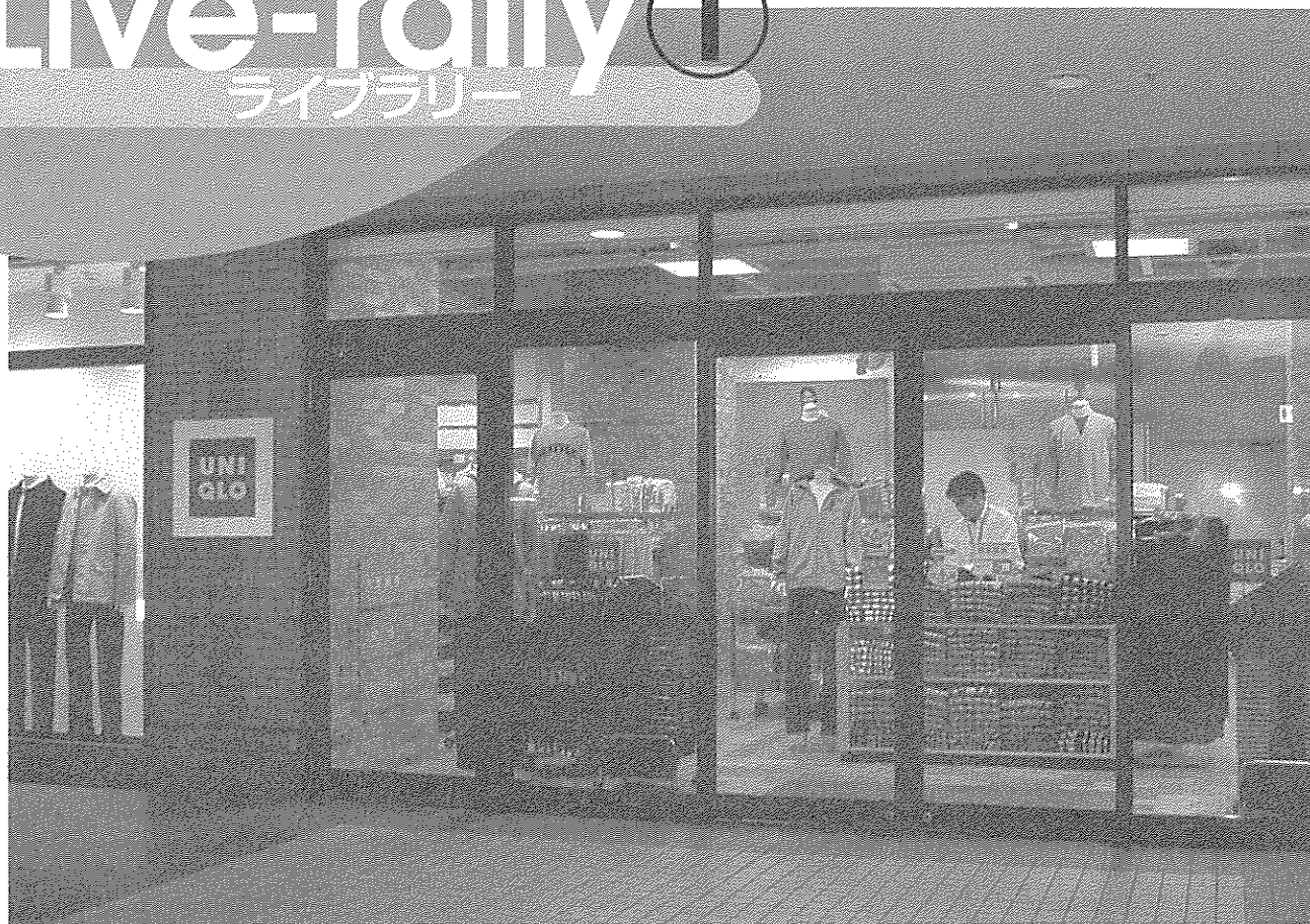


ここに、がんばる人と、それをあたたかく支える人がいる

Live-rally ①

ライブラリー

*タイトルのlive-rallyは造語です。live=今 rally=やりとりするという意味と、ライブラリー(図書館)で本を閲覧するように、働く障害者の今を知っていただきたい、という願いを込めたものです。



人に優しい社会づくりを 社員一人ひとり真剣に取り組む

常磐線・地下鉄千代田線松戸駅。山田店長がにこやかに迎えてくれる。(株)ファーストリテイリング・ユニクロ松戸駅東口店。(株)ファーストリテイリング(ユニクロ)では、かつて「社内で中途障害者がでたこと」や「人へ、社会へ。どれだけ誠実な会社になれるだろう」という理念があることから、各店舗1名を目標に障害者雇用を進めている。そんなユニクロに幡谷論史さんを訪ねた。

株式会社ファーストリテイリング ユニクロ松戸駅東口店

【概要】

業種:高品質・低価格のカジュアルブランド「ユニクロ」
を提供する製造小売業

設立:昭和38年5月1日

従業員数:ユニクロ松戸駅東口店30人(アルバイトを含む)

(株)ファーストリテイリング全社 7,500名

平成16年2月末日(正社員・準社員)

【障害者の雇用人数】

知的障害者:1人(基本的に各店舗1名雇用)

【障害者の雇用状況】

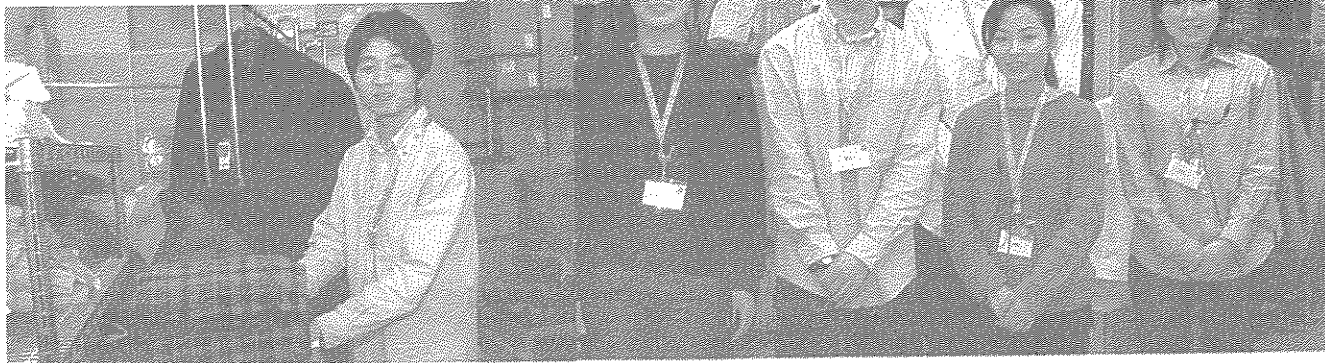
勤務時間:9:00~16:00・週休2日制

【知的障害者の作業内容】

売り場への商品補充・棚の整理

仕事仲間と共に▶

倉庫の整理をする幡谷さん▼



心を繋ぐホットライン

商品管理室。黙々と入荷商品の袋剥き（ビニール袋から商品を取りだす）をする幡谷さんのかたわらに、黒いトランシーバー。幡谷さんと店内を結ぶホットラインだ。作業が終わると手に取り次の作業指示を得る。バックヤードで一人作業する幡谷さんに「疎外感を抱かせず、いつでもコミュニケーションがとれるよう」と山田店長が取り入れたアイデア。幡谷さんもその気持ちを理解している。「仕事が速く進むよう、少しでも次の仕事に取組めるよう」目標を設定して一所懸命頑張っている。

幡谷諭史さん20歳。千葉県立障害者技術専門学校、ながうらワークホーム、アートボックス作業所を経て、平成15年9月（株）ファーストリテイリング・ユニクロ松戸駅東口店に入社。アルバイトを含めた30名のスタッフの中に、準社員（社会保険加入、賞与有）として働く。勤務は、

「仕事はぜんぶ楽しい」

幡谷さんの現在の職務は「清掃、袋剥き、袋入れ（商品を袋に入れ直す作業）、値札の付け替え、ハンガー掛け」である。当初は、商品をきれいに整えたり、袋剥きやハンガー掛けが早くできずに悩んだこともあるが、いまは「どれも楽しい仕事」とのこと。「まだまだ分からないことがある」というが、すぐに店長やスタッフに聞き、「みんなやさしく丁寧に対応してくれるので大丈夫」との感を深めている。朝は時間前に出社し、店頭のゴミをひろい、ショーウィンドと自動ドアのガラスを磨く。店長も、「よし次は

月～金曜日9:00～16:00まで。入社のきっかけは、同店が障害者雇用を進める本社の方針で、障害者の募集をした際に、沼南育成園生活支援ワーカー市岡さんの勧めにより、ハローワークを通じて応募したこと。その後、本人、ご両親、支援者（千葉障害者職業センターカウンセラーと生活支援ワーカー）との三者面談を行い、2週間の実習を経て採用を決定。実習開始と同時に、千葉障害者職業センターの宮原知子、古迫香枝両ジョブコーチの支援を受けた。「単純作業でも手間を惜しまず、自分で工夫してがんばっているのが能率は上がっています」と山田店長。ジョブコーチは、緊張しがちな本人の相談役として、またある時は作業要領を身につけるための指導役として、度々事業所を訪問。店長や社員の皆さんの疑問や不安にも応える心強い見方であった。

エアコンの清掃」とどんどん仕事を増やす。与えられる仕事が増えるのは「うれしい」ことだという。

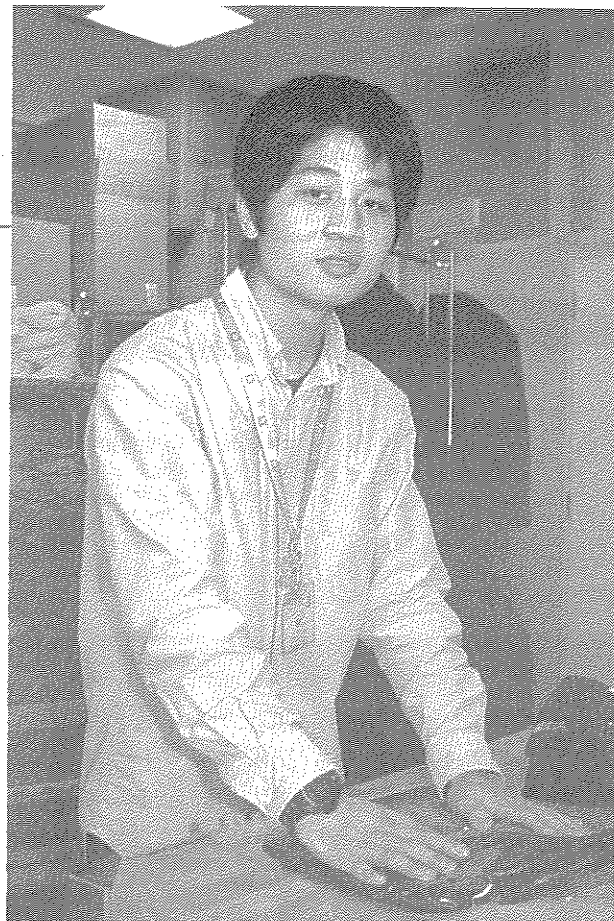
将来の夢を聞くと、「ここ（ユニクロ）で一所懸命やりたい」。休日には「中学の時に陸上部だったので、江戸川べりを走るとか…」。実は幡谷さん、家族ぐるみで競艇のファンで、自身、競艇の選手になるのが夢だったという。競艇のどんなところが好きですか？と聞くと「ぶつかりあい、ターンの瞬間がいい…」との答え。「（船券が）当たればうれしい」との素直な気持ちもあるようだ。

「貯金がしたい」

現在ご家族と同居する幡谷さんは、この4月から独立しようと考えている。まだ、グループホームに入居するかアパートにするかは決めていないが、「貯金をしなければいけない」と思っている。このきっかけは、社会人として芽生えた自負心にあるようだ。

一度「(船券が)当たって家族で焼肉パーティを開いた」という幡谷さんに、市岡さんは「今度は私も呼んで……」と言いながら、そのすぐ後に金銭管理の大切さを説く。信頼関係があればこそであろう。

幡谷さんは「明日も仕事があって良かった」という気持ちを忘れないようにしている。山田店長によると、幡谷さんの入社実績で、他店にも別の障害者の採用が決まったという。雇用の輪がさらに広がることを願う。



Live-rally POINT

雇用にあたっての アドバイスを聞きました

(株)ファーストリテイリング・ユニクロ松戸駅東口店長・山田一真さん

雇用にあたっては、障害者の方が仕事を習得するまでには時間がかかるという認識と、そのことに対する寛容さを自分の中に準備することだと思います。その上で、担当してもらう仕事を何度もシュミレーションし、これなら大丈夫、これは〇〇さんの仕事というものを、用意しておくことが大事だと思います。「自分たちが、やってもらって助かるもの」というところにポイントを置くと、見えてくるものがあると思います。それと障害者の方の採用をスタッフに伝える問題ですが、私は「従業員は、経営者以上にナーバスになる」との考えから、スタッフ全員に伝えました。ジョブコーチの方に支援に入ってもらったことも、ご本人を理解する上で、大きな効果となりました。おかげで支援体制がすぐにでき、幡谷さんも違和感なくすぐに溶け込めたと思います。



Live-rally POINT

雇用にあたっての 留意点を聞きました

沼南育成園 生活支援センター 生活支援ワーカー・市岡 武さん

事業主の方には、「とにかく雇ってみて下さい」。私生活の面は私たちが支援しますから」とお願いしたいと思います。ここユニクロさんは、地域の施設→千葉障害者職業センターという支援組織のリレーションの好例で、私が面接に同行し、実習が決まった後は、職場での支援を千葉障害者職業センターの宮原さんや古迫さんに引き継ぎました。幡谷さんの「まじめで、根気つよい」仕事ぶりが良い評価につながったと思います。ただ、障害者の方の中には私たちが気に留めないことを気にしたり、上司が変わると、戸惑いをおぼえる方もいます。特にその点へのご配慮をお願いしたいと思います。

